

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	4590100253
法人名	財団法人 弘潤会
事業所名	グループホーム ほのぼの天満
所在地	宮崎市谷川3丁目1番2号 (電話) 0985-50-4696

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年11月20日

## 【情報提供票より】(20年10月13日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成20年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 8.5 人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,250 円		

## (4) 利用者の概要(10月13日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢 平均	84 歳	最低 76 歳	最高 94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人弘潤会 野崎病院・野崎東病院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは宮崎市内の大淀川に近く天神山公園の麓の高台にあり、眺めが良い。道路沿いにあるが静かな環境である。地域の人々とも運営推進会議を通して非常に密接な関係を築いており、行事等の参加交流も盛んである。管理者を中心に全職員が「地域生活相談員」として信頼されている。また、ホームを地域の災害避難場所として提供している。利用者・家族ともどもホームの向上に協力して、地域に密着したグループホームである。
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成20年1月の開設で、今回初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	法人本体の協力を得て、管理者を中心に職員一体となり、意見を出し合って自己評価に取り組み、家庭的な住みやすさを目指してサービスの質の向上に活かそうとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者の全家族、包括センター、駐在所、天満宮の宮司、自治会員(班長)、民生委員、消防団員、法人本部・事業所職員、等毎回30名程度の出席のもと、運営推進会議を開催している。ホームや地域の行事、防災訓練、学校・保育園との交流、見学会等取り組み状況を報告し、協力が得られるよう話し合っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族全員運営推進会議の委員として出席されており、意見等を運営に反映する体制になっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣には、民生館、幼稚園、小・中学校、神社、天神山公園、ショッピングセンターなどあり散歩がてらの訪問者も多い。ホームは、地域のお年寄りの「地域生活相談員」となり、相談に対応したり、介護施設の情報を紹介したりしている。自治会に加入し、清掃活動、防災訓練等の行事に参加している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者本人の尊厳と主体性、適切な医療を受けること、地域社会の一員として生活することなど10項目の権利を契約書にも謳いこみ、理念を作り上げている。また、地域密着の要として、運営推進会議を位置づけている。		この1年の取り組みを活かして、地域密着型サービスとしての理念を条項にわかりやすく入れてはどうだろうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員「理念」を理解し、また運営推進会議を通して、家族や地域の協力者とも共有し、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣には、民生館、幼稚園、小・中学校、神社、天神山公園、ショッピングセンターなどあり散歩がてらの訪問者も多い。ホームは、地域のお年寄りの「地域生活相談員」となり、相談に対応したり、介護施設の情報を紹介したりしている。自治会に加入し、清掃活動、防災訓練等の行事に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者の理解のもと、管理者を中心にお互い意見を出し合いより良い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の全家族、包括センター、駐在所、宮司、自治会員、民生委員、消防団員、法人本部・事業所職員等、毎回30名程度の出席のもと運営推進会議を開催している。ホームや地域の行事、防災訓練、学校・保育園との交流、見学会等取り組み状況を報告し、協力的体制についても検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催のケアマネジメント等の研修に積極的に参加したり、よりよいサービス計画の作成のために相談したりしている。市役所からの運営推進会議の参加はない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	随時家族との面談を行ったり、場合によっては家庭訪問して連絡や報告をしている。また家族会や運営推進会議等においても報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出された意見等は、家族会・運営推進会議にて話し合い、意見の相違がある時は、市や県国保連合会等の関係機関と相談している。また介護相談員を受け入れ、外部者へ意見等を表せる機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員には、入居者との関係作りに力点を置くなど配慮している。特に大きな異動も無く、交代職員についても関係はスムーズにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は全職員を計画的に研修会、勉強会に参加させている。又職員会議等で報告会を設け、法人内のお互いの施設で反映させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、ブロック別研修会・懇親会に参加等、他の事業所との勉強会を行い、それを報告会等で共有し当ホームへ還元している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に施設見学をしてもらい、本人や家族の思いや要望を聞いて、信頼関係やコミュニケーションを図るようにしている。突発的な状況がない限り、利用者及び家族に馴染み良いサービスが出来るようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとり利用者の意思で園芸・食器洗い・掃除・洗濯物たたみ等の楽しみごとの出番があるように場面づくりをしている。特に園芸は、プラスチックの箱を利用して園芸用畑を庭につくり、花や野菜と一緒に作るように工夫している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員がセンター方式を用いて、利用者の思いや意向を把握するように努めている。それを基に本人の視点に合ったサービス提供になるよう全職員で意見を出し、共有して、より良い方向に導いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人・家族・担当職員・ケアマネ等にてサービス担当者会議を行い、本人及び家族の意向を取り入れた個別の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画が本人の現状に合っているか月1回のモニタリングを行っている。また、変化が生じた時は、担当者を中心にサービス会議を行い介護計画の見直しを臨機応変にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者台帳に①心身の情報②暮らしの情報③焦点情報(私ができること、私ができないことシート)の項目などで詳細に本人や家族の状況を把握しており、病院受診・訪問看護・訪問歯科・訪問リハビリなどの支援をしている。		得られた情報を活かして、さらにその人ならではの願いや要望を引き出し、柔軟な支援に結びつけるような取り組みも今後期待したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を主治医にして適切な受診を支援している。看取りについても主治医・家族・ホームと話し合いの場を設けている。また、定期健診も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医・訪問看護と連携を取りながら随時、本人、家族を交えて、状況に応じて何度も確認を取っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴・排泄時の対応については、特に職員間で気をつけ対応できる関係づくりを徹底している。全職員に従事者の守秘義務に関する契約書を取り交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の背景を把握し、一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の材料等を取り入れながら美味しく食べて戴けるよう工夫している。食事の準備・片付け等も自発的にされるよう支援している。利用者全員、歯の治療を終え箸を持って自ら食事をされていた。職員も利用者と同じ食事を一緒にとり楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人の希望に添って入浴している。自己にて決められない時は、週2～3回を目安に勧めている。時には、大浴場を開放したり、温泉に出かけたりして楽しんでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を把握し、園芸や編み物、料理等個々の希望で能力に合わせ支援している。公文の学習療法も取り入れ、楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	病院受診、買物、散歩(近隣にジョツピングセンター、民生館、天満宮神社、天神山公園など多い)など個人、仲間同志での外出支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向の利用者を職員は良く理解しており、見守りその為、日中は鍵はかけていない。また、近所(警察、消防、商店、保育園、ガソリンスタンド等)の理解、協力的体制もできている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防・災害対策として訓練は、年2回実施している。その時、自治会・民生委員にも出席を依頼し、災害時の応援も同時に依頼している。また、ホームを地域住民の避難場所として提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の状況・水分摂取量は毎日記録し、異常がある場合は主治医に報告し、相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は、利用者にやさしい明るさを取り入れ、暑さ・寒さに十分配慮して、居心地の良い場を提供している。また、四季折々の花々も飾ったりしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はなじみの物を自由に持ち込み、家族と共に配置している。時々職員も手伝いして模様替えなどしている。		